

【問題提起】

第6分科会「看護・介護の喜びを伝えたいーともに育ちあう職場づくりー」

- ◇運営委員（敬称略） 伊藤 絹江（福岡医療団訪問看護ステーションコスモス）
伊藤 リカ（介護老人保健施設柏ヶ丘）
井上 裕紀子（みさと協立病院）
- ◇助言者（敬称略） 山田かおる（東京勤医会東葛看護専門学校・副校長）

医療・社会保障を取りまく状況は年々深刻さを増し、人手不足が解消されぬまま、看護師も介護士も「やりがいを感じない」現実に疲弊し、メンタル不全を抱える者も増えてきています。看護大学が増加していることで新人も増加していますが、疲弊して離職していく職員が少なくないため受け入れ側にもゆとりがありません。安倍政権は大企業を優遇し、医療に市場原理を持ち込み、消費税増税を始めとして国民に負担を押し付け、貧困や格差もいっそう広がっています。看護界においては低医療費政策の一つとして「特定行為（医行為）に関わる看護師の研修制度」が昨年10月より実施されています。看護教育の現場では安定した職を得るために、若い学生に混じって賃金の低い介護士が看護師を目指し、生活苦のためシングルマザーの入学が増えています。看護も介護も「人がその人らしく生きる」ことに寄り添い応援することを基本に、ケアという相互の関わりを通して、自ら人間として成長できる素晴らしい仕事です。

本分科会は、先に述べた厳しい情勢を正しく捉えつつ、忙しくても、辛くても「より良い看護・介護を提供したい」と奮闘する仲間の看護実践や、職員育成の取り組み、職場づくりの経験などを学びあい、看護や介護の本来の役割について考える分科会です。昨年は、レポートを中心に、看護学生や新人への関わり方、病棟における介護福祉士たちの取り組みなど熱心な討議が行われ、例年行っているミニ学習会では「看護教育を通しての看護学生の成長」について学びあいました。私たちは討議を通じて、社会を良くしていく運動を同時に行い、働き続けられる職場作りをしていく必要を確認しました。そして、一人ひとりが学び、育ちあう職場にしていくためにも、患者さんや利用者さんから実践を通して学びつくし、人生も含めて分かち合えるような仲間作りも必要であることを討議を通じて深めました。今年は看護と介護の協働や新人・学生への関わりなどについてさらに討議を深めたいと思います。

実践を通して感じる思いを、表現したり言語化したりすることは、日々の奮闘を改めて確認でき、やりがいにもつながります。それは後継者を育成する土台にもなります。どんな看護・介護を目指しているのか、何を大切に日々奮闘しているのか、自分を見つめなおす機会にしてみませんか。世代や働く分野を越えて語りあいましょう。そして、看護・介護本来の仕事ができるよう、それぞれが手を繋ぎ、社会に働きかける運動の組織や医療、福祉の充実を訴え、一人一人が健康で豊かに働き続ける一助となるような交流をしたいと考えています。

◇参加の呼びかけと募集するレポート

日々の看護・介護実践、職員育成の取り組み、職場づくりなど、現場の奮闘が見える実践的なレポート。また、現場を支える労働組合の活動なども募集しています。形式は問いません。

※若い皆さんにも、豊富な経験を持つ皆さんにも、実践者としてその誇りと喜びをきっと感じていただけると幸いです。多くの方のご参加をお待ちしております。